

第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇日 時 令和3年12月11日(土) 10時~12時
- ◇場 所 奈良県立万葉文化館
- ◇参加者 村上(平城小)
阪口(万葉文化館)
米田・大西(奈良教育大) 計4名

- ◇内 容 学習指導案の検討 奈良市立平城小学校 村上雄太先生
「ひらけ! 万葉まきもの ~言葉で伝える意味を万葉集から学ぶ~」小学校2年

目標

- ・言葉には経験したことを伝える働きがあることに気付く。(知識・技能)
- ・自分の文章の内容や表現のよいところを見つける。(思考・判断・表現)
- ・言葉には思いを伝えられるよさがあるということに気付く。(学びに向かう力・人間性等)

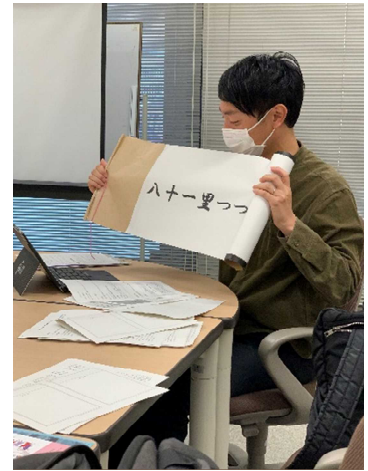
・小学校2年生にとって内容が難しい万葉集を扱うため、「難しい」「分からない」などという先入観を持たせないようにしたい。

→ わくわく感を演出するために巻物を活用した学習展開に

1時間ごとに巻物を開き、学習の導入に活用

国語・算数・生活・音楽の教科一つ一つに巻物を用意→万葉集やその時代に由来する学習展開

学習の終わりには、万葉集を学んだ振り返り書き、それをもとに伝えることの意味を考えていく



・「万葉集の日」として、一日ですべての授業を行う。

→ 一日で行うことで、2年生の児童に万葉集というものを強く印象付けることができる

・単元の終わりに詩を書く活動に取り組む。

→ 平城を詠んだ歌を紹介する中で、自分も昔の人のようにやってみたいという思いを持たせたい

1時間目 算数 九九で文章をつくろう

万葉集の九九を使った一文を紹介 「八十一里つつ」(くくりつつ)

九九を振り返り、使えそうな言葉を探す 「はっぱ」「にし」「ごご」など

2時間目 国語 浦島太郎の話をつくろう

昔の原文を見せ、話を予想する

文部省歌「浦島」を聞く

風土記・万葉集の話を読み、似ているところをさがす
キーワードを残しながら自分の「浦島太郎物語」を作る

3時間目 生活 昔あそびをしよう

万葉集のさいころを使った一文を紹介する

昔のすごろくを紹介し、体験する

4時間目 音楽 わらべ歌であそぼう

万葉集は歌であるということを知る

「はないちもんめ」「ずいずいずっころばし」を体験する

5・6時間目 国語 万葉集から学んだことを生かそう

これまでの学習の振り返りをつなげ、巻物のもとにする

巻物の最後に自分の思いを書く

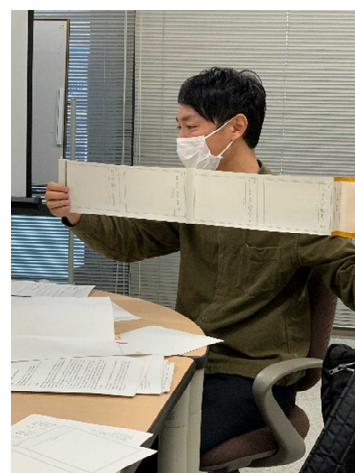
「奈良山の嶺の黄葉取れば散る 時雨の雨し間なく降るらし」(1585)を詠む

→ 一瞬の情景や心情をとらえたもので、それを表現したものが今も残っていることに気づく

昔の人がしていたことを自分もしてみたいという思い

身近な出来事も残す価値のある宝物になる どうすれば自分の思いを言葉にできるか

詩に書いてみる



【討議から】

万葉集 = 国語 ということに縛られがちだが、様々な教科でやろうとしているところ非常にいい
巻物を導入に使い、最後には児童一人一人が巻物をつくるというのが魅力的

万葉集は巻物だから「巻」で表す

万葉集は歌であり、当時の人々の生活そのものが表現されている

そんな身近なものであることに気づいてほしい

「1000年以上昔も今も同じなんだね」と気づける内容になっていると思う

世代間の公正の価値観もあるのではないか

わらべ歌は、ぜひ「ならのだいぶつさん」もやってほしい

最後の詩を書く題材は、平城小学校の好きなおところということにこだわらなくてもよいのでは

何気なく見ている日常の何でもない風景を題材にしてはどうか

あるときの一瞬見えるもの、感じるものがあるはず 紹介する万葉集の歌はまさにそういうもの

※次回予定

1月29日(土) 10時~12時 実践報告会

